

月刊 都響
2022 July

ヤング
シート



気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
7/24

Subscription Concert

第955回定期演奏会 C シリーズ

指揮／アラン・ギルバート

モーツァルト：交響曲第39番 変ホ長調 K.543 (30分)

モーツァルト：交響曲第40番 ト短調 K.550 (28分)

モーツァルト：交響曲第41番 八長調 K.551

《ジュピター》(33分)

東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、モーツァルトの交響曲が3曲演奏されます。交響曲とは「響き」が「交わる」と書くとおり、オーケストラのさまざまな楽器の音色が豊かに織りなす音楽作品です。そのルーツは、オペラ（歌の劇）の幕開けにオーケストラだけで演奏される序曲とされています。だんだんと序曲の部分だけが独立して、交響曲へと発展したのです。



モーツァルトと交響曲

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791）は、まだ5歳の時に作曲を始め、周囲の大人たちを驚かせました。生まれたのはオーストリアのザルツブルクという都市ですが、音楽家のお父さんは幼い我が子の才能を多くの人に見せようと、ヨーロッパ中を演奏旅行で周りました。少年時代からさまざまな国の音楽をたっぷり吸収し、才能を伸ばしたモーツァルトですが、その生涯は35年という短いものに終わりました。しかし、とても多くの傑作を残しています。

交響曲はまだ8歳のころから作り始め、番号のついた完成作品だけでも41番まであります。途中までしか楽譜が残されていないものや、オペラ序曲の交響曲アレンジ版なども含めると、その数はなんと60曲以上にものぼります。特に10代の頃はたくさんの交響曲を残していて、15～17歳の間には17曲も完成させています。



モーツァルトは25歳から音楽の都ウィーンで暮らすことにしました。当時のウィーンではオペラやピアノ協奏曲が人気で、交響曲はあまり流行していませんでした。モーツァルトもウィーン時代の11年間に作ったのは6曲のみです。そのうちの3曲が、本日演奏される第39番・第40番・第41番で、モーツァルトの「三大交響曲」と呼ばれています。

実はこの3曲は、モーツァルトが32歳（1788年）の夏に、一気に作曲されました。ウィーンに来てからあまり交響曲を書かなかったのに、どうして突然3曲も立て続けに作曲したのでしょうか。外国での演奏会のため？ウィーンの夏の音楽祭のため？はたまた楽譜を出版してお金を稼ぎたかったから？いろんな推測がなされていますが、その真相は謎のまま。この頃のモーツァルトはというと、1787年には敬愛するお父さん、そして1788年には生まれたばかりの娘がこの世を去るという悲しい経験をしました。また、作曲の仕事をたくさんしていましたが、モーツァルト夫妻は使うお金も多く、借金が大きく膨らんでいました。さまざまなストレスを抱えながらも、モーツァルトはそれに抗うように、この最後の三つの交響曲をエネルギーに書いたに違いありません。

三大交響曲

三つの交響曲はいずれも、4つの楽章で構成されています。

第39番変ホ長調は、モーツァルトが当時置かれていた大変な状況を考えると、驚くほど朗らかな雰囲気には満ちています。天国を思わせる明るさもたたえているため、モーツァルトの「白鳥の歌」（死の間際に作られた美しい傑作のこと）と呼ばれることもあります。第1楽章は堂々とした序奏に始まり、素早い音階が印象的に現れます。第2楽章は穏やかな曲奏で始まりますが、突如激しい感情ものぞかせます。最終楽章のフィナーレでは軽快な主題が何度も繰り返されながら音楽が厚みを増していき、華やかに全体を締めくくります。

第40番は朗らかな第39番とは対照的に、**ト短調**による悲劇的な雰囲気を湛えています。モーツァルトは2曲しか短調の交響曲を残していませんが、そのうちの一曲です。第1楽章の有名なメロディーには、「ため息」と呼ばれる下行する音型が使われています。 これは4つの楽章全体を通して使われています。第2楽章は一時の心の安らぎを表すかのような穏やかな音楽となります。第3楽章のメヌエットは、短調の持つ力強さも感じられます。

最後の**第41番ハ長調**はローマ神話の最高神である「ジュピター」の愛称で知られています。第1楽章の明るく力強い音楽は、まさに神の風格を感じさせます。最後の第4楽章にはモーツァルトが好んで使ったド-レ-ファ-ミという音型が

印象的に登場します。 これは古い聖歌に基づくものです。

モーツァルトがこの交響曲で用いて以来、このモチーフは「ジュピター主題」と呼ばれるようになりました。ジュピター主題が何度も繰り返され、その都度高さを変えたり、メロディーが複雑に重なり合ったりしながら、圧倒的なクライマックスを形作っていきます。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 アラン・ギルバート



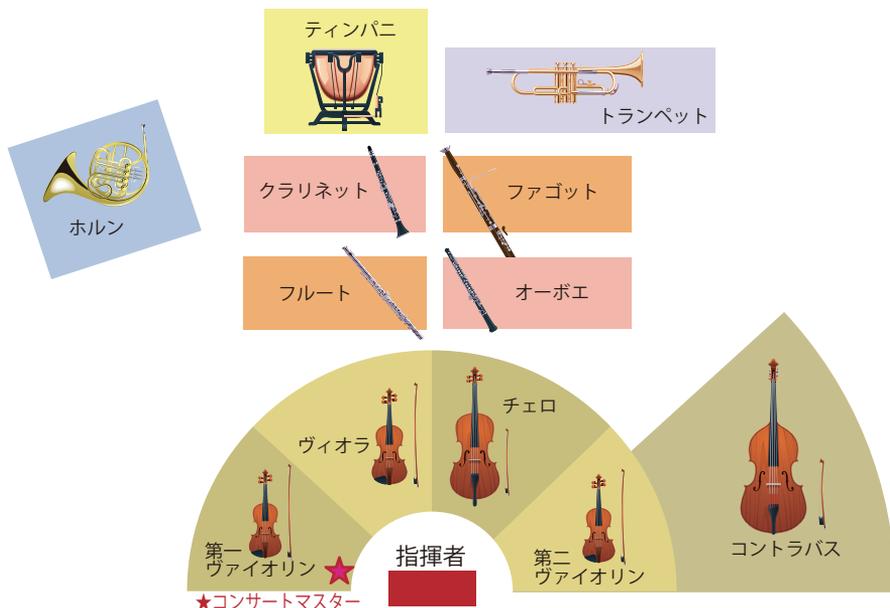
©Rikimaru HOTTA

東京都交響楽団首席客演指揮者、NDR エルプフィル（北ドイツ放送響）首席指揮者、ロイヤル・ストックホルム・フィル桂冠指揮者、ジュリアード音楽院指揮・オーケストラ科ディレクター。2021年にスウェーデン王立歌劇場音楽監督に就任。

2017年まで8シーズンにわたってニューヨーク・フィル音楽監督を務め、芸術性を広げる活動が高く評価された。ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管など世界の主要オーケストラに定期的に客演している。オペラではメトロポリタン歌劇場、ロサンゼルス歌劇場、ミラノ・スカラ座などへ登場した。メトロポリタン歌劇場とのDVD『ドクター・アトミック』（Sony Classical）、ルネ・フレミングとのCD『ポエム』（Decca）でグラミー賞を獲得。

オーケストラ配置図（7月24日 第955回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてくださいね。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。

